

区役所とまちづくり

港南区役所 谷垣弘行

区役所の総合庁舎をのぞいてみましょう。新しいところは別

かも知れませんが、なにやらゴチャゴチャした感じがしませんか。机や椅子、そして収納も色やデザインが課によって違って

いるんですよ。もちろん、市役所のそれぞれの所管課の予算で購入しているからですね。早い話が、各課バラバラなのです。庁舎の様子も縦割り組織の現れなんです。

今、まちづくりには市民参加が求められています。新総合計画や幹線道路計画においてさえ、市民参加が唱えられています。重要性を増しつつあるきめの細かいまちづくりー地域のまちづくりーでは、市民の参加なしには計画・事業を進めることは困難でしょう。また、ソフト面を含めた総合的なまちづくりを目指すば、個別の施策を総合化する場として地域が重要になって

来ます。地域レベルのまちづくりという場面では、地域に近い区役所がクローズアップされるのが普通です。

では、区役所は、まちづくりを現実に行っているのでしょうか。昔から大区役所主義が議論されてきたわりには、答えは否定的でしょう。一方には、区役所で行う必要があるという声があり、他方には、そんなことできるのという声があります。

必要性についていえば、関内の机の前に座っていて、全市の個々の地域についての実態を常に把握することは困難といえましょう。関内で、「調査より事業を」という声が出る一つの理由もこの辺りにありそうです。

可能性についていえば、現状では否定的です。現行でも、区要望予算反映制度や自主事業制度がありますが、中途半端の誘りを免れません。また、イベントを別にすれば、区役所の主体性に基ついた政策が組織的・体

系的・継続的に遂行される素地がないのです。区政推進課がいくら有能でも、これを変えない限り、区のまちづくりなんてできませんよね。

金が先か事業が先か、人が先か仕事か先かと議論しても不毛です。区役所には有能な人材がいます。これらの人材が組織化され、区の主体性を形成すれば、金を持っていなくてもまちづくりへと、一歩が踏み出せると思うのです。

港南区役所では、まちづくりの試みを行って来ましたが、体系的、継続性に欠けた嫌いがなければありません。現在、再開発の進む上大岡駅の東口地域で、まちづくりの動きがあり、地元と勉強会を一年余り続けています。

このような動きを助長し、拡大することが区のまちづくりを進めることにつながっていくのではないのでしょうか。そして、こうした動きの中で、地域をベースにした住民参加型のまちづくりの形が見えて来るはずですよ。そんなまちづくりが行われる頃には、区庁舎もすっきりと統

一的デザインと管理がされていることでしょう。

△あとがき▽

西区藤棚・境之谷のあたりを歩いていると、お年寄りの姿が多いことに目が行く。バギーカーを引きながら坂道を上る買い物帰りのお年寄り。児童公園のベンチに腰掛けておしゃべりをしながら日なたぼっこをしているおばあちゃんたち。西前の商店街は、願成寺の緑日には「おばあちゃんの原宿通り」となるらしい。または、戦後に形成されたコンパクトな既成市街地である。金沢区並木町は、昭和五十年代、埋め立て地に造成された集合住宅団地。美しい並木道、ゆとりのあるオーブンスペース、小さな子供の手を引いた若い母親の姿が目立つ。さしずめ、境之谷は「まち年齢」五十歳、並木町は十四、五歳か。まちの地形が違うように、まちには固有の時間軸がある。

私たちは、まず、まちの内在性(固有性)を認識し、表現することに慣れていない。まして、それを行政の計画の中に組み込み、施策の多様な形態としての

ありようを位置付けることに不得手である。均等なサービスを公平に迅速に提供することが、今までの行政の命題であったからだ。しかし、均等、公平を目指す一律の基準を個々のまちに当てはめようとするとさまざまなずれを生じる。まちに内在する流れを認識し、施策に適合させる「ケースワーク」機能がどこかに必要とされている。「成熟社会」には、行政の成熟化こそ最も重要な課題だろう。新総合計画策定のおり貴重なご意見をいただきました。また、発行が大幅に遅れましたことをおわび致します。△中川▽

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。企画調整室まで(電話六七一一二〇二九)。

この「読者のページ」へもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等、題材は自由。一〇〇〇字以内。